

和歌山だよい

平成23年
(2011)

2月号



檜野崎灯台と橋杭岩（串本町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P9
3. お知らせ…………… P10～P14
4. ふるさと歳時記…………… P15



すみれ

「外へ外へ」

昨年の選挙の次の日から、早速、多くの仕事が待っていました。お客様も多く見え、来年度予算など要望をされていかれますし、部内からもたくさんの案件が上がってきますので、これらをさばいていかなければなりません。将来の和歌山の発展を考えて誤った判断をしては大変ですから、真剣に取り組まねばなりません。

しかし、和歌山県の現状を考えると、こういう「さばき」だけでは知事は務まりません。ビジネスでいうと営業に相当するような対外活動をしないと和歌山の浮上は、なかなか果たせません。企業誘致や観光、物産のプロモーションのために多くの所に出向いて活動しなければなりません。和歌山の企業のために国の研究開発プロジェクトを取ってくることも必要です。また、せっかくの和歌山の企業がよそへ行ってしまわないように説得もしなければなりません。高速道路だけでも、その早期完成や4車線化、さらには工事完成時期の繰り上げ要請に至るまで、走り回らなければならないことはいっぱいです。果ては、県職員を最も望ましい研修先に押し込むことに至るまで、たくさんの営業活動があります。更に、こういうことがうまく行くように、人脈の維持涵養^{かん}もおかないと発言力が弱くなってしまいます。

「さばき」だけなら、どっしりと座っていればいいのだから楽なのになあとすることもありますが、「さばき」だけでは和歌山は生きてはいけません。知事はもちろんのこと県の職員も、そして、できれば県民の皆様も、外へ外へどんどん働きかけて、和歌山の力を伸ばすようにしないといけないと思うのです。



「きのくにスポーツフェスティバル2010」で挨拶する仁坂知事。
(関連記事 P6)

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

● 和歌山県内で初めて「高病原性鳥インフルエンザ」が発生 (不安が広がる中、被害を防ぐため懸命に感染防止対策)

・ 2月15日、紀の川市の養鶏場で飼育されている鶏から、高病原性鳥インフルエンザの感染が確認されました。県は、直ちに対策本部を設置し、感染拡大を防ぐために、発生農場で飼育する12万羽の鶏の殺処分とともに、半径10キロ以内の移動制限（区域内にある農家の鶏の移動や卵の販売などを禁止）を決定しました。



鶏舎内で防疫作業に従事する県職員

・ 15日夜から始まった殺処分には、自衛隊の派遣要請を行い、県職員・紀の川市の職員・農協職員など、昼夜を問わず、交代制で対応しました。

・ 発生翌日の県議会冒頭で、仁坂知事は次のように述べました。（全文）

昨日、紀の川市貴志川町において高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。

県におきましては、ただちに対策本部を立ち上げ、殺処分や移動制限区域の設定等の防疫措置を講じたところであり、今後、防疫対策に万全を期して参りたいと考えております。県民の皆様には、感染した鶏に濃厚に接触しない限り、人には感染しないこと、また感染した鶏の肉や卵が市場に出回ることはありませんので、どうか安心していただきたいと思います。県と



いたしましては、迅速な防疫措置と同時に、県民の皆様には正確な情報の伝達に努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

・ 20日夜、殺処分した12万羽の埋め立て処分、鶏舎の消毒を終え、防疫処理を全て完了しました。皆様には大変なご心配をおかけしました。関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、引き続き養鶏農家に衛生管理の徹底を指導し、発生予防に努めます。



防疫作業に従事する県職員

●第62回全国植樹祭実施計画が決定！

・2月8日、衆議院議長公邸で開催された（社）国土緑化推進機構の特別委員会において、5月22日に田辺市で開催される第62回全国植樹祭の実施計画が承認されました。

・冒頭、仁坂知事は、「森を未来（子どもたち）へつなぐという気持ちを紀州木の国から発信していきたい。」と挨拶しました。（右写真）

・記念式典は、田辺市の新庄総合公園で約3,500人が参加して開催され、映像と子どもたちの合唱を中心に演出されます。来場者を神話の時代をイメージした法螺貝や和太鼓の演奏で歓迎した後、天皇皇后両陛下によるお手植え・お手播き、各種表彰、大会宣言などを行い、最後は参加者全員で竹ポットを持ち上げ、会場全体で未来の「山」を表現してグランドフィナーレを迎えます。

・記念式典の開催の前後に各市町村に設置する地域植樹会場では、県民総参加による植樹を実施。県内の各地の子どもたちが育てた苗木などが植えられます。



●第62回全国植樹祭協賛品受領式及び感謝状贈呈式！

・第62回全国植樹祭に、「和歌山県森林組合連合会」、「和歌山県木材協同組合連合会」、「紀州林業懇話会」の三団体から協賛をいただくこととなり、2月18日、県庁で協賛目録受領式及び感謝状贈呈式がおこなわれました。

・協賛物品は、記念式典で天皇皇后両陛下が御使用になる「お手植え台」「お手播き箱」「御机」等木材製品一式です。製作にあたっては、本県の誇る紀州ヒノキや海布丸太（スギ）が用いられることとなっています。



●「第5回わかやま産品商談会 in 大阪」開催！

・2月15日、「第5回わかやま産品商談会 in 大阪」を「大阪マーチャндаイズ・マート（大阪市）」で開催しました。

・仁坂知事は「和歌山県のおいしいもの、良いものを沢山買って頂き、流通に乗せてもらって、全国の食卓へと届けて下さい」と挨拶し、県産品を売り込みました。

・前日の大雪にもかかわらず、78事業者（内新規17）が出展、商品仕入担当者（バイヤー）等の多くの来場者に自慢の商品をアピールしました。今回も県内の商業を学ぶ高校生が参加。県立和歌山商業高校と、今回新たに、県立笠田高校、県立神島高校が加わり、2年生の約40名が元気ハツラツと和歌山県産品のPRや商談を行いました。（写真）

・和歌山県の多様な食材を使った魅力的なメニューを紹介するフードコーナーでは、「梅チャツネ（ソース）のサバサンド」など4品を紹介。「プレミアム和歌山コーナー」では、今年度から創設された「審査委員特別賞」受賞商品（鯖棒寿司、海の生ハム、本竹皮包み羊羹 塩）の試食を行うなど、大いに賑わいました。



● 「2011体験・学び・感動の修学旅行セミナー」仁坂知事がトップセールス
～和歌山県「ほんまもん体験」の修学旅行～

・2月8日、和歌山県「ほんまもん体験」の修学旅行のトップセールスをホテルメトロポリタンエドモンド（東京）で行いました。旅行会社・学校教員等約100名を前に、仁坂知事は「和歌山はどのようなところか」「和歌山の修学旅行受入状況」「魅力一杯の感動体験」「私たちの修学旅行支援態勢」などの項目について説明し、「子どもたちは単に見るだけでなく、体験することにより大きな達成感を得ることが出来る。地元の人々との交流の中でいろんなことを学習できる修学旅行があってもいいのではないか、そのために県は事前準備からトータルで修学旅行の準備をお手伝いする」と話しました。



・平成22年10月に修学旅行で来県した千葉県立松戸矢切高等学校（明地教諭）からの事例発表後、別会場において、缶詰作り、備長炭風鈴作りなど「ほんまもん体験」を参加者に実際に行ってもらいました。

・今後、昨年設立した「和歌山県体験型教育旅行誘致協議会」による学校訪問活動等を行い、修学旅行誘致活動を積極的に展開していきます。

※ 和歌山県体験型教育旅行誘致協議会

構成員：和歌山県観光連盟及び県内各教育旅行誘致組織（日高町体験型旅行誘致委員会、みなべ町教育旅行誘致委員会、白浜町教育旅行誘致協議会、串本町教育旅行誘致協議会、那智勝浦町教育旅行誘致協議会）

●FOODEX JAPAN2011 に今年も自治体最大規模で出展！

・3月1日～4日、県と県内24事業者が共同して、千葉市幕張メッセで開催される「FOODEX JAPAN 2011(第36回国際食品・飲料展)」に出展します。



・この展示会は、アジア・環太平洋地域最大の食品・飲料の国際展示商談会で、国内の商社・卸、フードサービス、メーカー、小売店など多量のバイヤーが訪れるほか、世界各国からも多くのバイヤーが集まることで知られています。今年は来場者約8万人、出展者約2,450社を見込んでおり、和歌山県は、平成20年に開催されたFOODEX JAPAN2008から4年連続で自治体最大規模の出展となります。

《出展企業》

- ・(株)紀和農園プロダクツ ・(株)いなみの里梅園 ・永岡食品(株) ・井上梅干食品(株)
- ・河本食品(株) ・(株)紀州ほそ川 ・(株)岩本食品 ・南紀梅干(株) ・(株)濱田
- ・紀の誉食品(有) ・(株)早和果樹園 ・小南農園 ・(株)伊藤農園 ・紀の里農業協同組合
- ・紀北川上農業協同組合 ・みなべいなみ農業協同組合 ・紀州田辺うめ振興協議会
- ・中田食品(株) ・(株)酒のかまくら ・(株)きたかわ商店 ・(株)石橋
- ・(株)大覚総本舗 (株)カワ (株)カネヨシ由谷水産

●紀州繊維工業協同組合が東京で「第6回ぶあぶあ（高野ロパイルファブリック展）」を開催！！

・3月10日、11日、紀州繊維工業協同組合が東京・原宿にある「ラフォーレ原宿・ラフォーレミュージアム」で、【第6回ぶあぶあ（高野ロパイルファブリック展）】を開催します。

・この展示会は、日本で唯一のパイルファブリック総合展示会であり、紀州繊維工業協同組合の13社の企業が参加します。

《出展企業》

- | | | |
|--------------------|--------------|----------|
| ・青野パイル（株） | ・杉村繊維工業（株） | ・野上織物（株） |
| ・井脇織物（株） | ・妙中パイル織物（株） | ・松岡織物（株） |
| ・オーヤパイル（株） | ・中野メリヤス工業（株） | ・森井織物工場 |
| ・（株）岡田織物 | ・（株）中矢パイル | ・萱野織物（株） |
| ・紀泉物流（株）（ハイパイル事業部） | | |

●わかやま版「過疎集落支援総合対策」 第1弾計画決定！！

・個別の集落や市町村単位ではなく、住民生活の一体性を重視した過疎生活圏（昭和の大合併前の旧町村や中学校区等を想定）単位で住民や行政が一緒になって、地域の再生・活性化に取り組む「わかやま版：過疎集落支援総合対策事業」の第1弾として、寒川生活圏（日高川町）の「シイタケを核とした産業振興で未来につなぐ集落づくり」と三川生活圏（田辺市）の「三川元気夢村（げんきむら）プロジェクトで集落元気」への支援を決定しました。

・「寒川生活圏」は、かつて、シイタケ産業が盛んでしたが、サルなどの鳥獣被害が深刻で生産量が激減しています。そこでホダ場（シイタケ原木の伏せ込み場）を鳥獣害防止柵で囲んで安定的な生産を確保するとともに、加工品の開発や原木オーナー制度の実施などシイタケを核にした活性化に取り組みます。併せて、古民家を活用した「寒川茶屋」や「寒川市（物産販売）」などを設けて、地域住民の交流を図ります。



獣害に強いホダ場



寒川茶屋候補地

・「三川生活圏」では、住民や地元の福祉施設が協力して遊休農地を復興、そこで収穫した野菜の販売や加工品開発を通じて、地域活性化に取り組みます。また、体験交流のイベントの実施や地域での集いの場の創設、市街地への買い物ツアーなど地域住民が安心して生活できる地域づくりを進めていきます。



都市部との交流体験



三川夢来人の館

● **きのくにスポーツフェスティバル2010「わがまちスポーツ」**
紀の川模擬国体成年女子ソフトボール大会開催！！

・2月5日、紀の川市貴志川スポーツ公園野球場に北京オリンピック金メダリストの上野由岐子投手が所属する「ルネサスエレクトロニクス高崎」を招いて、きのくにスポーツフェスティバル2010「わがまちスポーツ」として、和歌山県の国体成年女子選抜チームとの練習試合を行いました。

・試合に先立ち、仁坂知事や市内の小中高校生が実際にバッターボックスに立って、上野投手の剛速球を間近で体験するなど様々な催しが行われました。

・県では、今後とも県内各地で「わがまちスポーツ」を推進し、地域に根ざすスポーツの振興を図るとともに、国体に向けたスポーツ機運を盛り上げながら、男女総合優勝を目指して競技力の向上を推進していきます。



【宇津木総監督のノック】



【上野投手】



【バッターボックスの知事】

● **県立紀伊コスモス支援学校高等部の生徒が知事を訪問！！**
～就業を目指した製パンづくり、働くことの大切さを学ぶ～

・2月4日、紀伊コスモス支援学校高等部の生徒達が当日授業で焼き上げた10種類のパンを仁坂知事に贈りました。同校では、就業のための訓練の一環として、本格的な製パン機材を導入し、地元で製パン業を営む専門家から技術指導を仰ぎながら、製造から販売まで行っています。

・知事は「これはおいしい！100点満点！」との感想を述べ、生徒たちは、「褒めてもらってすごく嬉しかった」と笑顔で答えました。

・県では、特別支援学校の取組内容を製造から地域での販売活動にまで広め、地域との交流を深めながら、職業教育の理解啓発に努めるとともに、生徒たちの職業スキルの向上を目指します。



●東海和歌山県人会総会懇親会開催！！

・2月10日、「平成23年東海和歌山県人会総会・懇親会」が、名古屋国際ホテルにおいて盛大に開催されました。

・高尾愛知県副知事、下和歌山県副知事、大橋和歌山市長をはじめ、11名の県内市町村長が来賓として出席しました。

・山口会長による開会のあいさつの後、仁坂知事の「知事選挙では皆様方の温かいご支援を賜り二期目の舵取りを担うこととなりました。今後とも、皆様方との絆を大切に、元気な和歌山の創造に精一杯努めてまいりますので、各方面から、ご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。」というメッセージを下副知事が代読し、祝辞を述べました。

・懇親会では、恒例の鮭の一頭造り、トランペットの生演奏や抽選会、由良町の生わかめのしゃぶしゃぶコーナーなどが設けられ、大いに盛り上がりました。



挨拶する山口会長

●近畿連合和歌山県人会「新年互礼会」開催！！



・1月23日、「平成23年近畿連合和歌山県人会新年互礼会」が、神戸市の三宮センタープラザビルで、京都・大阪・堺・神戸の県人会会員約60名が出席し、盛大に開催されました。

・近畿連合和歌山県人会代表幹事である神戸和歌山県人会南方会長による歓迎のあいさつの後、仁坂知事から、和歌山の近況や本年5月に田辺市で開催する全国植樹祭に向けての取り組みなどを報告しました。

・続いて行われた懇親会では、和歌山県出身芸能県人会副会長で歌手の賀川けい子さんがふるさと和歌山の情緒豊かな歌を披露するなど、楽しいひとときを過ごしました。

・また、会場内には、「プレミアム和歌山」推奨品や田辺市による梅酒の試飲コーナーを設けるなど、県産品の紹介をしました。

●平成23年度振興局政策コンペ事業（8事業）を選定！！

・「振興局政策コンペ事業」とは、県の出先機関である振興局の若手職員が、地域住民と話し合い、地域の課題に対する解決施策や地域の資源を使った活性化施策を企画立案し、決定した事業です。（◆は、具体的な事業です）

①“こだわりカフェ・ベーカリー”の町きみの” PR 事業（海草振興局）

・カフェ・ベーカリーと町内の施設・団体が連携したイベント等を行い、“カフェ・ベーカリーファン”から“こだわりカフェ・ベーカリーの町きみのファン”への発展に繋がります。

- ◆各施設・団体が連携したおもてなしメニューの作成・体験
- ◆紀美野町の魅力を様々なツールを使って発信



②春の風物詩（潮干狩り）復活プロジェクト！（海草振興局）

・近年アサリの減少のため、片男波で潮干狩りが開催できていません。そこで、潮干狩り復活を目指し、減少の原因と考えられている食害生物を市民と一緒に除去する。さらに県内最後の貴重な「和歌川干潟」の環境保全活動も併せて行います。

- ◆アサリを食害する生物の防除
- ◆アサリ資源量通年調査
- ◆和歌川の干潟保全に係る広報活動、学習会



③高野七口街道再発見！（伊都振興局）

・高野山へは『高野七口』と呼ばれる7ルート of 参詣道があります。2ルートについては、すでに世界遺産登録されていますが、残りの5ルートにスポットを当てて売り出すことで、伊都管内への観光客の増加を目指します。

- ◆マップ作成：ルート上の故事来歴調査、紹介ルートの選定
- ◆ルート整備：簡易な看板設置など



④有田圏域の特産品を活用した地域交流・啓発 ～ポンポンフィーバー！？～（有田振興局）

・地域の祭りなどに、店舗（ポン菓子）を出し、地域住民との交流により、障害への理解を深め、障害者福祉の向上を目指します。

- ◆屋外イベントに参加し、ポン菓子作製の実演と配付



⑤県内唯一のCAS冷凍を活用した地域資源売り出し作戦！（有田振興局）

・『旬の新鮮な“生しらす”が年中食べられるまち』を確立し、湯浅湾しらすのブランド力を向上させるとともに、湯浅湾しらすを活用し、地域集客力の向上に繋がります。

- ◆「湯浅湾生しらすブランド化」への取り組み
 - ・PRグッズ製作や食フェアでの販売促進活動等
- ◆「年中生しらすが食べられるまち」への取り組み
 - ・生しらす料理品評会の開催や「生しらすツアー」の企画売り込み等（*CAS冷凍：細胞を生かしたまま瞬間冷凍する技術）



⑥健康日高ヘルスプロモーション事業（日高振興局）

- ・管内の地域住民の健康づくりを推進するため、特定健診・がん検診の受診率を高める取り組みなどを実施します。
 - ◆ヘルスポイントによる受診率向上の仕掛けづくり
 - ◆健康ウォーキングイベント
 - ◆ラッピングバスによる受診啓発



⑦「あゆ」で日置川魅力アップ事業（西牟婁振興局）

- ・鮎釣りを通じて日置川の魅力を売り出すことで、鮎釣り客・観光客の増加に繋げ、地域の活性化を図ります。
 - ◆体験観光に向けた環境整備
 - ◆鮎釣り教室の開催
 - ◆情報発信



⑧ようこそ「さん・けん・きょう」！熊野の国へ（東牟婁振興局）

- 全国的にも希な三県境（和歌山県・奈良県・三重県）が集中する当地域にスポットをあて、新たな切り口で情報発信を行うとともに、管内各地の話題づくりを行います。
 - ◆県境表示、案内板の設置
 - ◆「さん・けん・きょう」スタンプラリーの実施
 - ◆珍スポットの募集とパンフレット作成



●農用地総合整備事業「黒潮フルーツライン区域」が完成！

- ・2月9日、印南町、みなべ町にまたがる区域の農業活性化をはかるため、平成13年度から森林総合研究所がおこなっていた農地と農道の整備が完成し、仁坂知事、玄素印南町長、小谷みなべ町長、富安県議、坂本県議、花田県議が出席し、完成式が行われました。
- ・完工式では、印南町宮ノ前で農道のテープカット、くす玉開披の後パレード、ホテルで式典が行われ、完成を祝って、印南町の地元婦人会による、ぜんざいの振る舞いや、みなべ町地元による餅撒き、「よさこい踊り（プラリズム～梅舞）」の披露が行われました。
- ・これらの農地や農道を活用して、高品質な農作物生産と輸送が可能となり、地域の発展が図られます。



（事業内容）

- 区画整理 53ha・暗渠排水 64ha
- 農地造成 27ha・農道 14.3km



わかやま喜集館を民間で開設して下さる方を募集しています！

・わかやま喜集館は、和歌山の魅力あふれる観光と物産を一体的にアピールする情報発信拠点として平成16年2月に開設されたアンテナショップです。開設以来、首都圏における新たな販売ルートの開拓、新規顧客の開拓に積極的に取り組んでいます。

県では継続的にわかやま産品を紹介できる民間のアンテナショップを和歌山県外で開設して下さる方を募集しています。開設費用等の補助はありませんが、「わかやま喜集館」の名称やロゴの使用、県産品や生産者のご紹介等の支援を行います。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。



お問い合わせ先

農林水産部食品流通課 電話 073-441-2815 / FAX073-432-4161

ANA と共に日本の空へデビュー！
伊藤農園 100%ピュアジュースはっさくしぼり

・伊藤農園の100%ピュアジュース「はっさくしぼり」が、1月から「ANA MY Choice」に機内飲料としてデビューしました。ANA 機内飲料担当の方が、和歌山県のアンテナショップ「わかやま喜集館」で「はっさくしぼり」をご覧になったのが発端です。

・「はっさく」は、和歌山県が生産量日本一を誇り、その果汁は、みずみずしく、甘みと酸味のバランスが絶妙です。伊藤農園では、素材そのままの味にこだわり、皮や袋の苦みやアクが入らない搾り機を開発、やさしく果汁を搾っています。「わかやま喜集館」(東京有楽町)でも販売していますので、是非一度お試し下さい。



東京・銀座のレストランで 和歌山の新鮮で美味しい食材を使ったフェアが開催中！

①BAR&レストラン「ボンサルーテ」

- ◆期 間 平成23年1月17日（月）～2月28日（月）
- ◆場 所 東京都中央区銀座7-10-1
ホテルグレイスリー銀座3F

◆メニュー

- ・田辺市仮屋さんから届けられた根野菜のムース
- ・和歌山産天然魚のカルパッチョ
生姜風味のトマトコンサントレ
堀河屋野村貯蔵の醤油ヴィネグレット
- ・TONTON有機農場大浦さんのバラ肉から作った自家製パンチェッタの燻製
自家栽培のリーフサラダ
- ・紀伊水道で獲れた新鮮な釜揚げしらすと田辺市 藪中さん野菜のパスタ
- ・本日入荷の和歌山天然魚をシェフスタイルで！
- ・かつらぎ町大浦さんの育てた有機豚を三週間熟成したロースグリエ
- ・有田、谷井農園から届いた蜜柑のタルトと
龍神村、原さださんの龍神柚べしから作ったショコラジェラート
- ・自家製 黒米パン・コーヒー

◆レストラン情報

ホテルグレイスリー銀座（藤田観光グループ）にあるモダンなレストラン。厳選素材をフレンチとイタリアンのフュージョン料理でお楽しみいただけます。

レストラン名「ボンサルーテ」は“健康に良い”という意味の造語です。美味しい料理をご堪能いただきながら、しかも健康になれるよう、ひとつひとつ厳選された国産の食材にこだわっています。



②イタリアンレストラン「銀座イタリー亭」

- ◆期 間 平成23年1月20日（木）～
- ◆場 所 東京都中央区銀座1-6-8
西山興業銀座ビル1F・B1F

◆メニュー

- ・ダイマル農園の新鮮野菜と“うめどり”のポーチドエッグのサラダ
- ・紀州日高漁港より入荷の鮮魚のカルパッチョ
- ・なんたん蜜姫（さつま芋）のポタージュスープ
- ・アジアカエビと完熟房取りトマトのスパゲッティ
- ・“しらす”とカマンベールチーズのピッツア 黒胡椒風味
- ・紀州日高漁港直送の鮮魚をお好みの調理法で
- ・紀州“うめどり”のハーブグリル
- ・シフォンケーキ柑橘風味 ハニーシトラス添え

◆レストラン情報

1953年（昭和28年）に創業以来58年間、愛され続けてきた憧れのイタリアンレストラン。

本格的でありながらもどこか素朴。高級ではあっても庶民的。素朴で懐かしい料理とほっと心が落ち着く店内で皆様をお迎えいたします。





和歌山県 × 楽天トラベル タイアップ

「ほんまもん体験付きワクワク宿泊」観光キャンペーン

皆さん、和歌山にお越しの際は、ご利用下さい！！

★和歌山県と楽天トラベルがタイアップする楽天トラベル初の取り組みとして、パワースポット熊野古道ウォークなどの体験と宿泊がセットになった「体験型観光商品付き宿泊プラン」を発売中！！



【キャンペーンの概要】（3月31日（木）まで）

●楽天トラベルWeb特集ページの作成

トップページに設けたキャンペーンバナーから特集ページへ誘導し、多くの方々に和歌山を案内しています。



●楽天トラベルニュース（メール）の効果的な発信

楽天グループ内での連携により、和歌山に興味のある方々に向けた旅行案内メールを送付。（楽天市場で和歌山県産品を買ったことがある方へのご案内など）

●JAL楽パックと連動させた旅行商品の開発

JAL利用と宿泊がセットになったJAL楽パック（昨年9月に発売）との連動により、空路利用も含めた和歌山県の旅行プランを提案。

●その他キャンペーンとの連動

「そろそろ和歌山に行ってみようキャンペーン」や、現在実施中の「あったかわかやま宿泊得々キャンペーン（3万円キャッシュバックキャンペーン）」との連動により、和歌山県へのさらなる誘客を促進します。

【※あったかわ和歌山宿泊得々キャンペーン

<http://www.wakayama-kanko.or.jp/news/2010/0824.html>】



和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

わかやまのいちご「まりひめ」

和歌山県のオリジナルいちご「まりひめ」は、早生で豊産性の「章姫（あきひめ）」を母親、コクのある食味で日持ちの良い「さちのか」を父親として生まれた新品種です。伝統工芸品“紀州てまり”にちなみ、可愛らしくみなさんに愛されるよう「まりひめ」と名付けられました。



コロンとした可愛らしい見た目だけでなく、中身もとっても甘くておいしいまりひめ。その他にも、いちご特有の香りが豊か、かじっても鮮やかな紅色、粒が大きく、良く揃っているなどの特徴があります。

カットしても美しく色づいた紅色であることなどが評価され、昨年春に堂島ロールで有名な株式会社モン シュシュからまりひめを使った「プリンセスロール」や「まりひめ米粉ロール」が発売されたこともあります。



丁寧にパック詰め♪

お姫様いちご「まりひめ」

紀の川市のいちご農家・岩鶴さんから、まりひめ栽培についてお話を聞いてきました。

岩鶴さんはまりひめ歴2年。和歌山県のオリジナル品種であることに興味を持ち、栽培を始めたそうです。2年目の今年は「(栽培)面積も増えました」とおっしゃっていました。まりひめの良いところは形が良く、ツヤツヤで色が鮮やかなことだそうです。

しかし、病気(炭そ病)に弱いため「収穫までが大変」。岩鶴さんは、まりひめが病気にかからないよう苗づくりから努力を惜しみません。

次の栽培のため、すでに親株を植えていると聞き、驚きました。いちご作りは1年がかりで行われるのですね。



「まりひめ」はいちご農家さんにとって、まるで大切な娘さんのようでした。病気にならないよう真心込めて苗を育て、出荷の時は傷が付かないよう1つ1つ大切に送り出します。みなさまのお手元に届けられる「まりひめ」は農家さんの愛情をいっぱい受けて育ったお姫様いちごなんです。

いちごの町で見つけたいちごな幸せ

紀の川市は和歌山県内でいちごの生産量1位を誇ります。今回、いちご電車が走る「いちごの町」（紀の川市貴志川町）をいちご好きのTさんとMさんが訪れました。



①和歌山電鐵のいちご電車に乗って和歌山駅から貴志駅へ出発～！電車はいちごづくし♪



②たま駅長で有名な貴志駅にて地元のいちごを使った「たまジャム」を発見！



③次はいちご自転車を見つけました。いちご色が目立つ！！



④町にはいちごの看板が！！思わずいちごオ・レが飲みたくなるカラーです。



⑤近くの直売所では、いちごのワインが並べられていました。



⑥今日は「いちごなツアー」楽しかったね♪2月はいちご狩りに行きたいね。

『2011わかやまポンチ春フェスタ』開催！！

和歌山県産いちごを使ったわかやまポンチが期間限定で楽しめる「2011 わかやまポンチ春フェスタ」を開催します。期間は平成23年2月10日(木)～2月28日(月)を予定しています。この春、いちごバージョンのわかやまポンチ巡りをしてみてはいかがでしょうか？

☆参加予定の店舗☆

- ①三八波 ②South West Cafe(本店、フォルテワジマ店) ③パスワード
- ④ロイヤルパインズホテル ⑤FUN+ZERO ⑥フレグランス
- ⑦やさい食堂 ⑧休暇村 紀州加太 (以上、和歌山市)
- ⑨ニイハオ (和歌山市、岩出市) ⑩カフェしおん(紀の川市)
- ⑪1.5cafe (有田川町) ⑫カフェ・ド・マンマ(みなべ町)
- ⑬ケーキの幸屋 (田辺市)



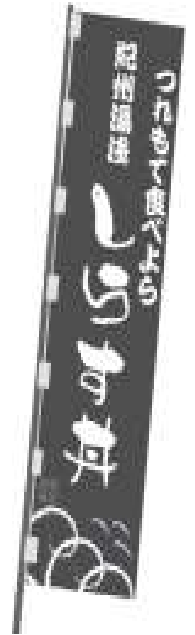
～わかやまポンチとは？～

- ①和歌山産の梅の甘露煮、またはシロップ漬けを使用されている
- ②和歌山産のフルーツを1つ以上使われている
- ③和歌山産フルーツ等の使用が表示されていることを条件に大いに売り出しています。

～ しらす丼 (つれもて食べよら)・シロウオ漁
 湯浅まちなか・にぎわい復興プロジェクト
 伝統的な町並みを活かしたまちづくり (湯浅町) ～

しらす丼

・古くから沿岸漁業が発達していた湯浅。しらす水揚げ量が和歌山県内で第1位(約50%を占めます)。そのしらすを添加物を使わず塩味だけで釜ゆでした「紀州湯浅しらす丼」は新鮮かつ絶品で、「和歌山ご当地グルメ30選」にも選ばれました。そんな美味しい湯浅の食を改めて知ってもらい、全国に発信していくため活動を始めた「湯浅の食」戦略会議。そこで決定した「紀州湯浅のしらす丼が食べられる店」11店。キャッチコピーは「つれもて食べよら 紀州湯浅のしらす丼」で店頭にはノボリ(右)があります。ノボリを目印に湯浅でこれからは旬の「春しらす」を味わってみませんか。



(しらす丼 700円～価格は各店でばらつきあり。問い合わせ先：湯浅町産業観光課 0737-63-2525(代表))

シロウオ漁

・湯浅町と広川町の間を流れる広川。毎年2月下旬頃～3月下旬にかけて、シロウオが産卵のため遡ってきます。シロウオはハゼ科の魚で全長5センチ。細長く透明で、シラウオ(シラウオ科 体長約10センチ)と似ていますが、別種の魚です。四つ手網という特殊な網でシロウオを掬い取る漁法(四つ手網漁)が行われる広川では、その光景が春を告げる風物詩となっています。シロウオの名物料理は、躍り喰いや、紙鍋、天ぷら、卵とじ、シロウオ御飯などがあります。



(3月13日(日)には、第8回紀州湯浅のシロウオまつりが開催されます。)

湯浅まちなか・にぎわい復興プロジェクト

・平成18年12月、湯浅町は、県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。以来、歴史的なまちなみの保存と活用に取り組んでいます。(「湯浅の食」戦略会議もプロジェクトの1つ)「歩く」「体験する」「食べる」しくみを作り、地域資源を活かした観光客に対応できるまちづくりを目指す湯浅町。観光客も増加しています。



湯浅町ホームページ <http://www.town.yuasa.wakayama.jp/>

～編集後記～

「春隣（はるとなり）」という言葉がありますが、そろそろ間近にある春の訪れを待ちわびる季節を迎えました。

こうした季節の中であって、息の抜けない日々を過ごしているのは、全国の受験生の皆さんではないでしょうか？

今まさに受験シーズンのまっただ中、毎日の寒さに耐えながらの試験勉強、体調に気を遣いながら、一生懸命頑張っていることと思います。

さて、受験生の皆さんが育ってきた時代を振り返ってみますと、日本経済のバブルのはじけ、その後、景気が長期に低迷するなど、日本の社会全体があまり「元気」がなかったことは間違いありません。

以前、テレビを観てみますと、「バブル景気を知らない。だからこそ、今の状況を見つめ、堅実に明日のために努力していきたい。」とある若者が語っていました。

日本社会全体が「元気」になるためには、将来の「夢」に向かって、自ら努力し、自分に磨きをかけ、一生懸命に頑張っている人々の期待に応えられる、健全な社会の構築が必要であると思います。

そうした社会の実現に向け、私たちは決して諦めることなく、その努力を惜しんではありません。多くの国民がそう思い、その実現を願うことができれば、結果として、元気な日本社会が創造されるのだと思います。

受験生の皆さんの努力が見事に結実することを願うとともに、若者の「夢」や「希望」を裏切らない健全な社会の実現に向かって、日々の仕事に全力で取り組んでいきたいと思います。

まだまだ、寒い日が続きます。皆様方には、お体をご自愛され、健康でお過ごしになられますよう、心からお祈りいたします。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2011年(平成23年)2月 NO.35

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022